企業名：アイシン

レポート名：アイシングループレポート 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

理解できる

アイシンは「“移動”に感動を、未来に笑顔を。」という経営理念を掲げ、働く仲間、お客様、社会に新たな価値を提供し続け、持続可能な社会の実現をめざしている。2021 年 4 月に旧アイシン精機と旧アイシン・エィ・ ダブリュ（AW）が経営統合し、新生アイシンが誕生したが、自動車産業を取り巻く環境は、電動化やコロナ禍、半導体不足、地政学リスクによる減産や資源高などの要因により、ここ一年でさらに厳しさが増している。このような環境の中で、新生アイシンを成長軌道に乗せるべく、大きく 2 つの柱で取り組みを進めている。1 つ目は「生き残りをかけて、将来に向かって、大きく経営の舵をきる」こと。電動化、カーボンニュートラル、ソフトウェアファースト・DX という中長期で取り組むべきテーマを重点領域として取り組んでいる。2 つ目は、「企業基盤を強化し、収益体質を上げ、将来投資に振り向ける」こと。予期せぬさまざまなリスクに対応しながら新たな価値を創造して行くために、収益体質強化を行っている。また、アイシングループビジョン 2030 では社会課題に向き合い、電動化への対応と成長領域へのシフトを加速する長期ビジョンを描いている。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

理解できる

まずアイシンの強みとして、「幅広い事業領域（グループ総合力）」があげられる。自動車部品やエネルギー関連商品などを手掛ける上で得てきたあらゆる技術を組み合わせて、新たな商品やサービスを生み出し、多様なニーズに応える事業を幅広く手掛けている。次にアイシンの強みとして、「カタチづくる力（ものづくり力）」があげられる。アイシンでは、次世代商品を支える独創的な工法や生産設備を絶えず革新し続けるとともに、ものづくりのスキルを伝承し、グローバルに活躍できるものづくり人材の育成にも注力している。さらに、より一層の競争力強化に向け、ものづくりにおけるデジタルトランスフォーメーションを加速させている。そして最後にアイシンの強みとして、「徹底して顧客に寄り添う開発（技術開発力）」があげられる。アイシンは設立以来、競争力のある幅広い商品を世界中に送り出してきた。それを可能にしたのは、世界のニーズをいち早く開発へ取り込むためのグローバルな開発体制や、それを支える独自の総合的な評価体制、自前主義にこだわらない幅広い業種との協業による先端技術開発している。今後は、技術開発におけるデジタルトランスフォーメーションを加速させ、より一層の競争力強化に取り組んでいくようだ。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

理解できる

まず第一の強みとして挙げた幅広い事業領域（グループ総合力）に関しては、アイシンは、グループ内の連携強化と経営効率化をねらい、これまでの分社経営からグループ経営に舵を切るとともに、カンパニー制を導入し、持続的な事業価値の最大化をめざしている。また次のカタチづくる力（ものづくり力）に関しては、アイシンでは、人材育成がものづくりの基礎となると考えており、1984 年からトヨタ生産方式や品質保証などを含む基礎教育を実施している。これまで培ってきた知識・ 技能の伝承に加え、AI 分野など、時代の変化に合わせた新しい教育を積極的に取り入れ、新たな時代で活躍するものづくり人材の育成に注力している。またアイシンはグローバルな供給体制を構築しており、世界の主要自動車 メーカーの近くで多様なニーズに対応し、高い付加価値を有する商品を開発、提供している。独創的な工法や生産設備を絶えず革新し続けるとともに、 世界のどの地域でも高品質の商品が生産できるように標準化を行い、生産技術開発体制の整備も推進している。そして最後の、徹底して顧客に寄り添う開発（技術開発力）に関しては、アイシンは既存商品のグローバル展開と技術的なブレイクスルーをめざし、アイシングループ 12 社で世界に 2 1 の海外開発拠点および 8 の先端研究機関を展開している。さらに 3 つのテストコースを設置している。また、アイシンは 1978 年に技術系シンクタンク「テクノバ」を設立する等、調査・先端研究・製品開発に取り組み、科学技術を用いて人類の発展に寄与するため の活動を行ってきた。その後も「イムラ・ヨーロッパ」をはじめ、国内外に基礎研究や先端技術の拠点を構え、エネルギー、モビリティ、エレクトロニクス、医療など、さまざまな分野で研究開発を進めている。 さらにアイシンは、他の自動車部品メーカーに先駆けて、1970 年という早い時期から周回路を持つ総合試験場を建設した。高品質な製品を自信をもってお客様へ提供するため、世界の特異環境を再現したテストコースや最先端の設備によって性能・耐久性を検証・追求し続けている。ユーザー視点であらゆる角度から試験を実施し、評価結果を商品開発に即座にフィードバックすることで、高まる信頼性確保のニーズに確実に応えている。 さらに自前主義にこだわらず、あらゆる業界から積極的に情報を収集し、技術に付加価値を付けていくことを進めている。CASE を中心とした自動車分野の開発はもちろん、先端研究において、人工知能に関わる共同研究・開発や優れた技術を有するスタートアップ企業とのオープンイノベーション活動を進めている。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

達成できると思う

アイシンの強みは「人」である。環境変化に打ち勝つために、持続的成長の原動力のアイシンの約 12 万人の“人の力”を結集し、新たな価値を創造することに試みている。そのため、

アイシンでは多様な個性を尊重し、挑戦する企業風土の中で、一人ひとりが「夢」を描き、未来を変えようという「志」を胸に、自ら考えて行動することで、自己の成長と働きがい、人生の幸せを感じられる人・職場づくりを推進している。また、アイシンは新たな事業領域の電動化・DX・グローバルをけん引する人材を確保するとともに、 その人材が主体的な共創・挑戦を生み出す人・職場づくりを推進している。そのために、会社のニーズと従業員のニーズのベクトル合わせを従来以上に丁寧に行い、個と組織が一体となり、双方の成長に貢献しあう関係をつくっている。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

改善余地は特にないと思う

基本的に書かれている情報から企業の目標や競争優位性を理解することができ、分かりやすく書かれ、必要な情報は網羅されている統合報告書であると感じた。また、字だけではない、図とデータも含めて、会社の特徴が極めてわかりやすく、明確に読者に伝わった。私は読者として、この会社の営業実績や特徴などの情報をはっきりわかったと考える。